令和７年度学校関係者評価報告書

近畿大学附属高等学校・中学校

【１】近畿大学への進学について

大学キャンパスに隣接する近畿大学の附属校としての強みを生かし、高校課程では、大学各学部による講座や実習を通して、生徒一人ひとりが自身の興味・関心を深め、将来のキャリアデザインにつなげられるような指導が行われた。また、中学校課程では、大学の各施設を活用した体験型学習が実施され、学びを深める機会が設けられたことが報告された。

高校課程第１学年全員が参加した近畿大学オープンキャンパスでは、オープニングイベントで気持ちを高め、各自興味のある学部の講座に参加し、満足度９２％だったことが報告された。

今後も、中学校課程では主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、高校課程では、十分な知識を基盤として、判断力や表現力を発揮しながら主体的に学ぶ姿勢を育む指導を推進していくことが重要である。こうした取組を通じて、柔軟な思考力と学び方を身につけ、社会に貢献できる自立した学習者を育成するとともに、近畿大学への進学につなげていくことの重要性について、理解が得られた。

【２】生徒育成の徹底について

引き続き、登校時間の厳守を呼びかけるとともに、遅刻管理システムを活用して保護者との情報共有を図ることで、学校と家庭が連携し、遅刻する生徒への支援に取り組んでいることが報告された。また、登下校時に周囲への配慮が不足している生徒に対して、年間計画に基づいた指導を継続して実施していることについても報告された。

生徒会では、全校生徒を対象とした各種アンケートを実施し、その集計・分析結果をもとに、より良い学校環境の実現に向けた話し合いが行われたことが報告された。

本校に対するお褒めの言葉については、集会などの機会を通じて生徒に紹介し、称賛することで、自己肯定感の向上につなげている。一方、苦情などについては、学年集会やHR活動、サイバーキャンパスを通じて、問題提起や注意喚起、必要な支援を行っている。こうした取組により、生徒一人ひとりが大規模校に通う生徒としての自覚を深めるきっかけとなった。その結果、本校に寄せられた苦情を全生徒が自分自身の問題として受け止め、自らの行動を見直し、改善することにつながったことが報告された。

近高祭では、文化クラブによる発表会や有志によるパフォーマンスが披露された。また、各学級では、趣向を凝らしたアトラクションや特色ある模擬店が出店され、実施後のアンケートで満足度が８５％であったことが報告された。

【３】学習指導の徹底について

iPad の利活用を通じて、中学校課程では「自ら考え・自ら導き出す」授業を展開するとともに、ロイロノート・スクールを活用した、生徒が主体的に学ぶ学習活動の定着が進んでいることが報告された。高校課程においても、ロイロノート・スクールをはじめとする各種アプリを活用した授業が定着しつつあることが報告された。

授業満足度について、授業アンケートの肯定的回答率が、中学校８９．８％、高校９０．９％で、生徒の満足度８０％以上という目標が達成されたことについて説明され理解が得られた。

社会貢献マインドを持ったグローバル人材の育成に向け、ＩＢ(国際バカロレア)のディプロマプログラムの実施にあたり教職員全員の共通理解のもと取り組んだことが報告された。

【４】進路指導の徹底について

令和７年度は、国公立大学の合格者数が増加したことを報告された。

特進クラスにおける群・学年・教科担当者間の連携を深め、指導力の向上を図るとともに、研修会や説明会を通じて、生徒一人ひとりの目標達成に向けた支援を行っていることが報告された。

教員間で国公立大学の進学情報や在籍生徒の成績分析結果、志望状況等を共有し、それらに基づくきめ細かな進路指導を実践することで、着実に成果を上げていることが説明された。

生徒が自らの将来像を描き、具体的な進学目標を設定できるよう、講演会や進学イベントを実施したことが報告され、理解を得た。また、進路指導部主催の進路指導実践例報告会を実施したことが報告された。

【５】健全な経営状況の維持について

生徒数・入学者数の減少による収入の減少に加え、空調システムの更新や電灯幹線設備の修繕、高置水槽の更新などに伴う工事費用のほか、光熱水費等の支出も増加した。このため、令和７年度の事業活動収支差額は赤字となったことが報告され、学校法人会計基準の改正に伴い令和７年度に限り計上した一時的な費用も影響したことが説明され理解が得られた。

また、生徒募集人員を充足していることが報告された。

以上